

農作業特報

黒部市
黒部市農業技術会議

高品質で美味しい米づくりには、土づくりが不可欠です。美味しい「黒部米」のために、土への愛情を込めて、元気な土づくりをお願いします。



土壌診断結果に基づく土づくりの実践！

「土づくり」は作物への効果がわかりにくく、病虫害や雑草の防除と比べると、ついつい後回しになりがちです。しかし、ここ数年は、加里・ケイ酸・鉄分の不足が要因と思われる「ごま葉枯病」(写真1)の発生が目立ってきています。特にケイ酸は水稻の収穫物(籾殻等)として持出されるため、作付後はほとんどのほ場でケイ酸が不足しています(図1)。

土壌診断結果を基に、不足する養分の補給に効果的な資材を選んで施用しましょう。

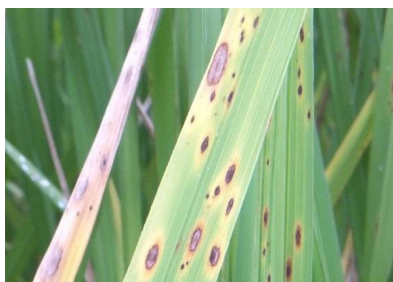


写真1 ごま葉枯病の病斑

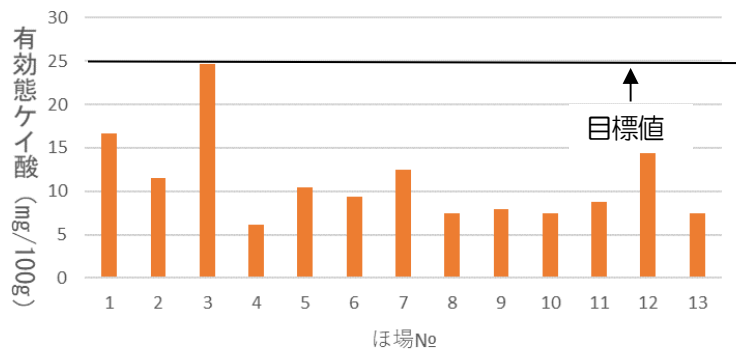


図1 水稻収穫後の有効態ケイ酸 (R3年)

「元気な土づくりのポイント」

ポイント1：土づくり資材の施用

土づくり資材の施用で、葉や根を丈夫にし、病気や倒伏に強い稲を作りましょう。

資材名	資材の特徴と保証成分量	10a 当り施用量
粒状ケイカル	稲体を丈夫にし、倒伏やいもち病の抵抗性が増し、pH 矯正に効果がある資材(ケイ酸30%、アルカリ分45%、苦土4%)	200kg
アサヒニューテツ	秋落ちしやすい砂質浅耕土等の鉄分補給と稲が吸収しやすいケイ酸を同時施用する資材(ケイ酸20%、アルカリ分30%、鉄分16.8%、苦土3.5%)	100kg
シリカロマン	土づくりに必要な成分を一度に施用できる複合資材(ケイ酸25%、アルカリ分45%、鉄分 [*] 5.0%、苦土7%、リン酸5%)	100kg

※含有成分量

ポイント2：有機物の施用

- 堆肥や発酵鶏ふんの施用で地力を高めましょう。
- ・堆肥散布後は、速やかに耕起作業を行いましょう。
 - ・春施用の場合は、コシヒカリは基肥チッソで1～2kg/10a減肥して下さい。
(基肥206では10～15kg/10a、有機Jコトコヒカリ3号では5～10kg/10aを減肥する。)

堆肥の施用	秋施用の場合 (10a 当たり)	春施用の場合 (10a 当たり)	水分※
牛ふん堆肥	2 t	2 t	65%
豚ふん堆肥	1 t	0.5～1 t	45%
発酵鶏ふん堆肥	乾田150kg 半湿田100kg	乾田100kg 半湿田75kg	24%

※堆肥の水分は参考値です。入手する堆肥の肥料成分を確認しましょう。

ポイント3：深耕の実施

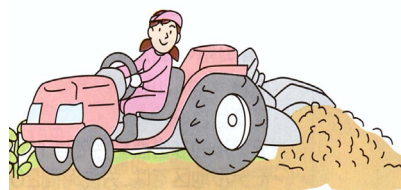
作土層が浅いと、根が十分に伸長できなくなり、気温や水分変化の影響を受けやすくなります。秋耕と春耕の2回掛けにより、稲わらの腐熟促進と作土深の確保に努めましょう。

○作土深15cm以上を確保するための方法

- ・ロータリーによる秋耕と春耕との2回掛けやプラウ等を活用しましょう。
- ・春耕時はトラクターの速度を落とし、丁寧に深耕しましょう。

○稲わらの腐熟を促進し、田植後のワキを改善

- ・秋耕は気温の高い10月中に行い、稲わらを腐熟させましょう。
- ・長雨等で、ほ場がぬかるんで秋耕ができない場合は排水溝を設けて水はけを良くしましょう。



秋の土づくり運動実施中 9月15日～11月15日

JAくろべ営農センター TEL 52-5615
新川農林振興センター TEL 52-0945

JAくろべ南部営農支援センター TEL 54-5450
北部営農支援センター TEL 54-0040
東部営農支援センター TEL 65-7220